interview 現地より

ロジスティクスの強さこそがWFPの真骨頂

◀インタビュー全文はこちら

国連WFPスーダン事務所 シッピングオフィサー **山﨑 和彦さん**

©WFP/Kazuhiko Yamazaki

©WFP/Kazuhiko Yamazaki

▲ポートスーダンでの支援物資の運搬

山﨑さん：穀物が5万トン級の大型船※2で輸送されてきます。

スーダンの港湾都市であるポートスーダンに2021年に着任した山﨑さんは、港に届く支援物資を荷下ろしして倉庫で保管し、国内各地へ輸送するという一連のプロセスを管理・運営しています。

「ポートスーダンはスーダンにとって最大かつ最重要の貿易港であり、年間20万トン前後※1の国連WFPへの支援物資も、ほぼすべてこの港で受け取っています。ポートスーダンには12棟の倉庫があり、物資は民間輸送業者、あるいは国連WFPの所有するトラックで各地に輸送を手配します。」

現在ポートスーダンには国内から避難民が押し寄せています。その状況について、山﨑さんはこのように例えます。「もし突然『15kg以内の荷物一つのみ持って避難せよ』と言われたら、あなたは何を持ち、なにを残していきますか？その判断は簡単ではないはずです。」

「紛争が終結するまで、**どんなことがあっても食料支援を途切らせることなく続けていかなければならない。それを我々の使命と考えて日々格闘しています。これからも皆様のあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。**」

※1 およそ新幹線5,000両分の重さ　※2 およそビル20階分のサイズ

© WFP/Alfredo Zuniga

モザンビークに住むアーネスティナさんとその息子についての記事は中面をご覧ください

Information

今すぐあなたができること

「WFP ウォーク・ザ・ワールド for アフリカ 2025」

参加費の一部が国連WFPの学校給食支援への寄付につながる、チャリティウォーキングイベントを開催します。どうぞお楽しみに！

日程：横浜5月11日（日）、大阪5月18日（日）、名古屋6月1日（日）

詳細は3月中旬にWEBサイトにて公開予定です！

ありがとうございました

学校給食キャンペーンご報告

2024年11月～12月31日まで実施された学校給食キャンペーン。皆さまからのご寄付により、**寄付金額35,417,088円、1,180,570人の子どもたちに学校給食を贈ることができます。**あたたかいご支援に心より御礼申し上げます。

© WFP/Arete/Fredrik Lerneryd

レッドカップキャンペーン

国連WFPが学校給食を入れる容器として使っている「赤いカップ」を目印に、毎日のお買物で学校給食支援ができる国連WFP協会の**レッドカップキャンペーン**。新たに1社が参加しました。売り上げの一部は学校給食支援に寄付されます。

https://www.jawfp.org/redcup/

株式会社ツルハホールディングス

くらしのおとも 100円均一 菓子

国連WFP
国連世界食糧計画日本事務所・国連WFP協会
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6F
World Food Programme
https://ja.wfp.org/

SNS情報　ご寄付はこちら

ご意見・お問い合わせ 0120-496-819 受付時間 9:00～18:00（通話料無料・年末年始を除く年中無休） info@jawfp.org

World Food Programme

飢餓から救う。
未来を救う。
SAVING LIVES CHANGING LIVES

国連の食料支援機関

国連WFPニュース

Feb. 2025 Vol.75

未来へのバトンをつなげる 母子栄養支援

未来へのバトンをつなげる 母子栄養支援

飢餓のホットスポット

国連世界食糧計画（WFP）は、国連食糧農業機関（FAO）と合同で半年に1度、世界各国の飢餓状況についてまとめた報告書「飢餓のホットスポット」（飢餓の深刻な地域）を発行しています。
最新の報告書によると、2024年11月から2025年5月にかけて、**世界22の国と地域で、急性の食料不安が深刻化する可能性が高い**とし、人びとが生命を守り、飢餓と死を防ぐための人道的行動の重要性を呼びかけています。

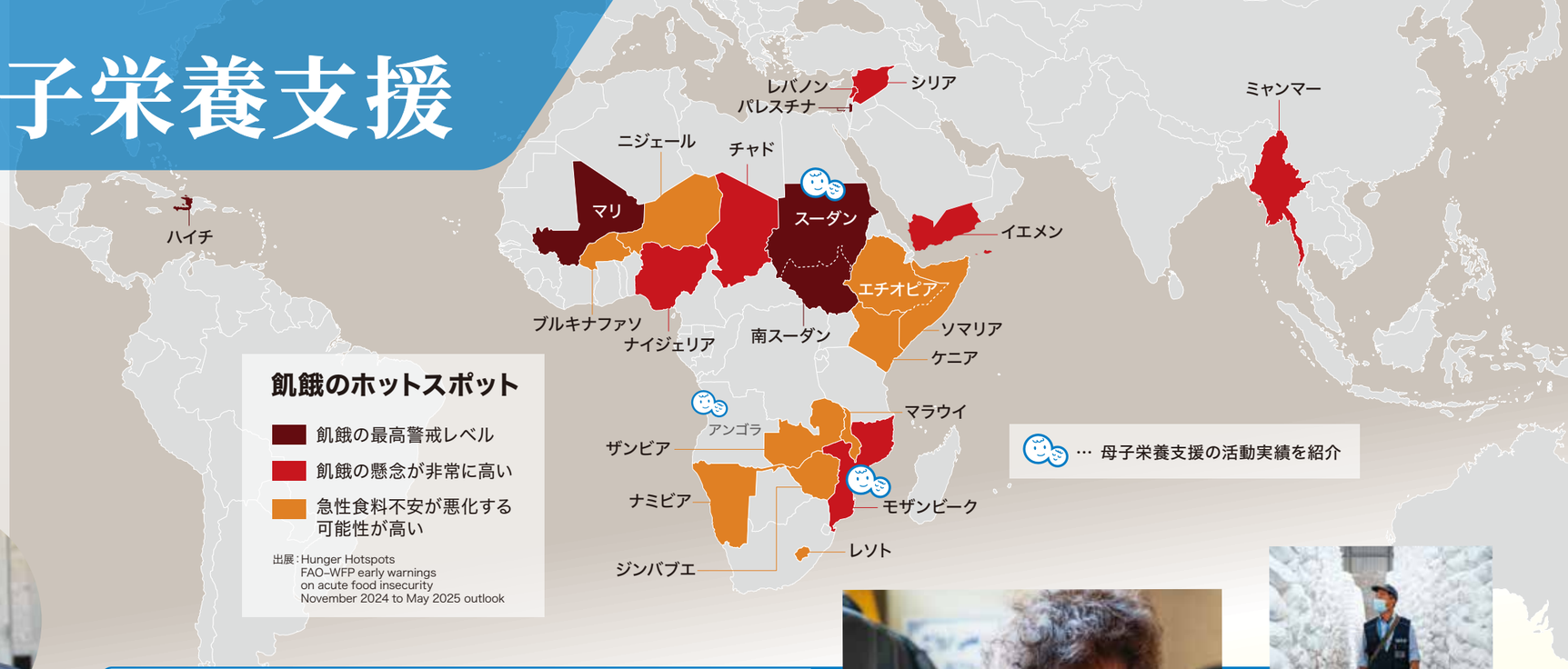
国連WFPのシンディ・マケイン事務局長は

「紛争激化や経済不安、気候災害が常態となりつつある。世界の飢餓を食い止めるために、必要な資源とパートナーシップを動員していく必要がある」と、

国際社会に更なる支援を求めています。

国連WFP
シンディ・マケイン事務局長

飢餓が引き起こす貧困と栄養不良の悪循環を断ち切り、
未来へのバトンをつなぐため、基盤となる支援が必要です。
今回は、その中の一つである**「母子栄養支援」**についてご紹介します。



母子栄養支援とは

3つの国での実績をご紹介！

赤ちゃんがお母さんのお腹に宿ってから、2歳の誕生日を迎えるまでの**「人生最初の1000日間」**。子どもたちの身体と脳は、この期間に著しく成長し、生涯にわたる健康と発達の基礎が築かれます。この間に最適な栄養を得ることが、その後の人生の可能性を大きく広げるのです。
国連WFPは、この重要な1000日間の栄養支援に力を入れています。
2023年、世界中の2,800万人の5歳未満の子どもや妊産婦を対象に栄養支援を実施し、27か国において各国政府と協力し、栄養不良を予防するための取り組みを進めました。

様々な国連WFPの支援
- 学校給食支援
- 自立支援
- 緊急支援

母子栄養支援
- ●栄養不良を直接治療し予防する
- ●栄養価の高い食品を入手できるよう支援 など

スーダン

世界中の「壊滅的な飢餓状況（IPCフェーズ5）」に直面している人の半数がいるとされているスーダン。依然として推定470万人の5歳未満の子ども、妊婦や授乳中の女性が急性栄養不良に苦しんでいます。
途切れない支援が必要不可欠ですが、雨季が終わり、壊滅的状況の地域にも支援物資が届き始めました。

ポートスーダンにあるWFP支援の栄養センターにいるアイシャちゃん（15ヶ月）

裏面に、スーダンで支援に携わる国連WFP職員 山﨑和彦さんのインタビューを掲載しています。

モザンビーク

国連WFPは、モザンビークのカボデルガード州の17地区で緊急の栄養支援を行っています。
人里離れた場所にあるコミュニティでは、移動検診チームを支援し、妊婦や授乳中の女性、5歳未満の子どもたちの栄養状態のチェックと治療を行っています。

動画はこちら▶

表紙の写真

アーネスティナさんは29歳で、4人の子どもの母親です。彼女の息子（生後8ヶ月）は栄養不良で、国連WFPのクリニックで治療を受けています。クリニックでは、医療スタッフによるチェックを受け、体重を測定し、栄養改善のための補助食が提供されます。クリニックに来てから、彼女の赤ちゃんは体重が増え始めました。

検診の様子。体重測定をする赤ちゃん

ホットスポット以外の国でも

アンゴラ

国連WFPは、干ばつの影響が最も大きい6州の約37万人の子どもや女性を中心に、栄養支援や食料支援を提供しています。
さらに、病気の予防や医療の質の向上と範囲の拡大にも貢献。これらの活動により、栄養不良の罹患・死亡率が減り、干ばつの影響を受けたコミュニティの回復と自立が期待できるようになりました。

食料支援を受ける妊婦

皆さまからのあたたかいご支援があるからこそ、赤ちゃんとお母さんを支える活動を続けることができます。